

令和2年度 作物栽培管理情報第11号

令和3年3月発行

大分県中部振興局 集落営農・農地活用班

1. 令和3年産麦 4. 出穂前後の管理作業

1) 赤かび病防除 ～出たらおしまい、2回防除で発生阻止！～

(1) 防除回数：2回

① 1回目 開花最盛期（麦の穂に葯＝花粉の入った袋が付いている時期）

② 2回目 ①の7～10日後

麦種	出穂期	防除適期と出穂期後の日数																			
		+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+10	+11	+12	+13	+14	+15	+16	+17	+18	+19	+20
裸麦						1回目防除									2回目防除						
小麦							1回目防除											2回目防除			

- 出穂期は、開花する前に圃場全体で40～50%穂が出た時期を指します。
- 防除適期は麦種毎に異なります。発生情報に注意し、適期を逃さないようにしましょう。

(2) 防除薬剤 ※赤かび病に抵抗性を与えないよう、2回目は1回目と違う薬剤を使用しましょう。

薬剤名	散布時の注意		使用上の注意	
	倍率	散布量/10a	収穫の	回数
ワークアップフロアブル	2000～3000倍	60～150L	7日前まで	3回以内
シルバキュアフロアブル	2000倍		(小麦) 7日前まで (裸麦) 14日前まで	2回以内
トップジンMゾル	1500倍		14日前まで	3回以内

- 使用する順序は、出荷先の栽培暦を参考にしてください。

参考 散布量別の、薬剤使用量

希釈倍率	散布量/10a		
	60L	100L	150L
2000倍	30ml	50ml	75ml
1500倍	40ml	67ml	100ml

注意 他作物に薬剤がかからないよう、防除前に圃場周辺の風向き・強さを確認しましょう！

ポイント たった1粒の赤かび粒が、生産物の価値を失わせます。防除を徹底し、発生しないよう心掛けましょう！

2) (醤油用小麦限定) 実肥を忘れずに ～高品質＝高タンパク化～

(1) 成分量 : 窒素のみ6kg/10a

(2) 施用法等 : 下記 (赤かび病防除と同時施用は原則2回実施)

施用法	肥料名	施用量/10a	回数	時期
施肥のみ	硫安 (N:21%)	30kg	1回	出穂期～10日後
	尿素 (N:46%)	13kg		
赤かび病防除と同時	尿素 (N:46%)	6.5kg	2回	1回目・2回目防除期

※赤かび病防除と同時に行う場合は、所定量の尿素を溶液と混用散布

- 赤かび病防除と同時散布により葉焼けが生じますが、収量・品質に影響しません。

ポイント 醤油用小麦の実肥施用は品質向上の総仕上げです。小麦のタンパク含有率を高め、収入向上を図りましょう。

湿害防止と収穫作業効率化のため、排水対策を引き続き行ってください。

お問い合わせ先：電話097-506-5791

ホームページ：http://www.pref.oita.jp/soshiki/11604/saibaikanrizyouhou.html